令和６年度　第１回史跡カリンバ遺跡整備検討委員会　議事録

場　所：史跡カリンバ遺跡・恵庭市民会館第一会議室
日 時：令和６年５月30日（月）13:30～14:45 （史跡カリンバ遺跡）
15:00～16:45 （恵庭市民会館第一会議室）
出席者：
（委　員）愛甲哲也、臼杵勲、高瀬克範、西村聡、吉岡亜希子、吉田惠介
（オブザーバー）文化庁調査官　中井將胤、北海道教育庁　内田和典
（関係機関）(株)環境緑地研究所　環境計画部長　太田幸司、技師　多田麻抄美
恵庭市建設部土木課　課長　田中徹、主査　野呂潤一、主任技師　吉田健人
（事務局）教育長　岩渕隆、教育部長　狩野洋一、教育部次長　山口晃弘、
郷土資料館　館長　髙野隆司、主査・学芸員　長町章弘、主査・学芸員　鈴木将太、
主事・学芸員　杉浦正和

●史跡カリンバ遺跡での質疑応答

・段丘崖を見るポイントにて
＜事務局＞　（整備概要等を説明）
＜F委員＞　2m程下枝を切る必要がある。
＜C委員＞　枝払いをして旧段丘涯の高低差を一目で見られるようにすると良い。
＜A委員＞　園路から枝道を造ってデッキを造るのも良い。
＜F委員＞　ふくらみを持たせた園路を造って、舗装やデッキなどのたまり場を造り、崖を見せれば良い。
＜E委員＞　すべてイメージに頼った説明なので、現地にここに溝があったなどのポイントを示すことが必要。

・見学ポイント①について
＜事務局＞　（整備概要等を説明）
＜C委員＞　具体的な見せ場が必要。例えば、市道団地中央通に墓の表示をするなど。
＜E委員＞　目で見て形がわかるようにすることが必要。来場者の予備知識が無くてもわかるようにすること。
＜F委員＞　市道団地中央通脇の斜面に墓の表示やマークがあれば良い。
＜C委員＞　それらの表示等は耐久性のあるタイルで造るのも良い。
＜E委員＞　偽物でも良いので、一目で規模感がわかるようにすることも必要。

・旧溜め池にて
＜事務局＞　（整備概要等を説明）
＜D委員＞　旧溜め池の水位と周辺の地下水位との関係性を見る必要がある。

＜F 委員＞　旧溜め池が元から水が溜まりやすい所なら地盤が下がる心配がある。また、埋め戻しても表面排水だけだと常にじめじめした状態となる可能性もある。
＜E 委員＞　園路の場所を再考する必要がある。
＜A オブザーバー＞　旧溜め池のある所は周囲より標高が低い。

・旧サイロのポイントにて
＜事務局＞　（整備概要等を説明）
＜F 委員＞　旧サイロを壊した際に出る島松軟石を再利用できないかと考えている。
＜A オブザーバー＞　旧サイロの現存数が少ないなら残すのも一手。移設しても良いのでは。

・花壇の前にて
＜事務局＞　（整備概要等を説明）
＜A 委員＞　旧サイロを残すなら、カラマツもセットで残すのも一考。また、植樹部分に盛土をするなら、かなり大規模な盛土になる。
＜A オブザーバー＞　基本設計の段階では基本計画から変更しても問題ないが、実施設計の段階で変更されると困る。

●議事録（恵庭市民会館第一会議室）

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 教育長挨拶

4. 自己紹介

5. 議題
（1）委員長・副委員長の選任について

高瀬委員長・臼杵副委員長を選任

（2）史跡カリンバ遺跡整備基本計画について

①整地
＜事務局＞　（資料説明）
＜A 委員＞　草刈りはどうしますか。
＜事務局＞　現状年 2 回草刈りを行っています。園路が完成したら回数を増やす必要があると考えてい

ます。
＜A 委員＞　草刈りは種子の飛ぶ前に行い、また場所によって時期を変えるべき。園路の周りはきっちりと行う必要がある。
＜C 委員＞　クルミやヤナギが生えてきているが、幼木のうちに切った方が良い。
＜A 委員＞　溜め池近くのオオバナノエンレイソウの群落は残した方が良い。
＜F 委員＞　溜め池から旧サイロにかけて良い林床植物が生えている。管理方法を考えた方が良い。また、地形図を見ると水の流れがわかるが、もう一度旧溜め池周辺を中心にどのあたりに水が溜まるのか確認した方が良い。園路の盛土があると水の流れが途中で途切れ、大雨の際に水溜まりになることがある。道南の史跡では雨が降ると必ず決まった所に水溜りができていた。

②伐採

＜事務局＞　（資料説明）
＜F 委員＞　予算によって優先順位を決めることになる。伐採はお金がかかり、園路も造る。それ以外に必要なものがあるか含めて伐採する本数と費用を決めて、長期計画または短期計画のどちらに位置付けるのか選択する必要がある。重要なのは解説するポイントから何を見せたいのかということ。お金をあまりかけずにできる下枝の打ち払いが大事。
＜E 委員＞　針葉樹の防風林はちょうどよい目隠しになっている。もし針葉樹を切るなら、替わりに高く成長する樹種を植えると良い。
＜B 委員＞　縄文景観に近づけるという観点から、針葉樹は切るという基本方針はそのままで良い。ただし予算もあるので、一気にではなく徐々に減らしていく年次計画を作れば良い。また、外側に街路樹を等間隔で少し植えたところで外側から中の史跡が見えるので、かえって障壁をなくして大学生が入りやすくする方が良い。子供が遊ぶことを考えると、外から見えた方が安全面で考えても良い。
＜F 委員＞　縄文の森を見せるのであれば、あまり目隠しはせず、広葉樹でできた縄文の森のスカイラインに合わない針葉樹を切ることで良い。ただし、お金の問題等があるので、ある程度は目をつぶって何を優先すべき工事なのか議論した方が良い。
＜C 委員＞　街路樹の更新は何年毎に行いますか。
＜事務局＞　市の方針では街路樹が多すぎることから､安全面を考慮し約 2 割程減らしていく考えです。樹種の更新は一部の道路のみが対象になります。そのため、団地中央道路の街路樹の更新時期に関しましては現状わかりません。ただし、イチョウは地域住民の方から好まれていないので、将来的には変わるかもしれません。
＜A 委員＞　支障木の伐採以外に危険な枝なども多くありましたので、剪定も必要になる。また、ツルも大量に生えているので、切れば史跡内が明るくなると思う。
＜F 委員＞　予算にも限りがあるので、伐採に力を入れるのではなく、園路を作った際の見せるものや、施設が必要であればそこにお金をかけるなどに重きを置く考え方が良い。

③旧溜め池埋戻し

＜事務局＞　（資料説明）
＜B 委員＞　溜め池を埋め戻すには結構なコストがかかる。遺跡の表土が薄いので、重機を入れる際も慎

重さが必要。最近は史跡整備の補助金があまり出ないという話も文化庁からあり、その辺が心配。
＜D 委員＞　溜め池の水位と地下水の水位が同じなら、埋め戻しても土の中である程度水位が保たれると思う。埋め立てる際に礫で埋めるのなら問題ない。どのように施工するかによるが、水を抜いてから土を入れて固めればしっかりとしたものができる。そのまま土を入れて埋めてしまうと将来的に液状化する可能性も十分ある。地下水は自然と溜まる水位と推測され、旧溜め池の水が周辺と比べて高くなっていることは無いと思う。埋め戻す際に使用する土もどこまで妥協するかで費用かなり変わる。
＜F 委員＞　市内の工事から出た土を捨てる残土置き場を史跡内に設定し、最後にブルドーザーなどで押すだけにすれば費用も安く済む。

④旧導水路・旧素掘り水路埋戻し
＜事務局＞　（資料説明）
＜A 委員＞　水路跡を残すことは問題ない。ただし、園路を造った際に子供が近づいて入らないようにしないと危険。低地面の木製階段も両端の部分に柵がないので危ない。
＜C 委員＞　低地面については前副委員長も心配されており、何もしないままだと危険。

⑤旧サイロ解体
＜事務局＞　（資料説明）
＜F 委員＞　旧サイロは崩壊の危険があるので撤去には賛成。ただし、色々な歴史の積み重ねがあっての現状なので、うまく活用してほしい。解体後の島松軟石は、板と金具を使ってベンチにする等を検討してほしい。捨ててしまうのはもったいない。
＜A 委員＞　史跡の花壇の縁石にする事も考えられる。
＜E 委員＞　オークションなどで需要はないでしょうか。
＜F 委員＞　以前美瑛町で石造りの公共施設を建てる際に、軟石を薄くスライスしたものを壁に貼り付けていた。相当価値はあると思う。
＜E 委員＞　島松軟石の活用の可能性について探っていただきたい。

⑥標識・説明板等設置
＜E 委員＞　史跡は草が生い茂っているだけなので、案内板や説明板は相当丁寧に書かないと来訪者が史跡をイメージができない。
＜C 委員＞　現地で表面に何か置くなど、目で見てわかる仕掛けが必要。
＜B 委員＞　この史跡は縄文時代が指定理由ですが、3 つの解説板のうち 1 つはアイヌ文化期でもう 1 つは擦文時代と縄文以外の説明が多い。縄文景観の説明をするなどもう少し縄文色を強くした方が史跡整備理由に沿う。
＜C 委員＞　恵庭アイヌ協会にも今の計画について意見を貰うと良い。
＜A オブザーバー＞　多言語化は是非やっていただきたい。
＜C 委員＞　千歳の史跡キウス周堤墓群との関連でカリンバを見に来るという方も多くなるので、多言語化はやった方が良い。
＜A オブザーバー＞　次回の委員会では、看板の具体的な案を提示していただきたい。

<F 委員>　園路を造ることは便利になってとても良いこと。しかし、それぞれのポイントで何をどう見せるのかという議論が不十分。地形、遺物、植生を使って、当時の暮らしについての解説、生活の実態、実物等、何をそこで伝えるのか、そのためのメディアとして案内板やAR・VRを使うといった内容を整理して、専門家に何が適切なのかを議論してもらう方が良い。そうすれば、何を整備した方が良いのか見えてくる。それができれば、どういう施設が良いかなど次の議論も出来る。
<C 委員>　解説板は高さがあって垂直よりも、低くて斜めになっている物が子供にも見やすい。
<F 委員>　解説板が斜めになっていると向こうの景色も見えるので、景色と一緒に説明すると良くわかる。
<C 委員>　段丘縁に大きな看板があると、景観を損なう。

⑦園路等
<D 委員>　人が歩くだけなら砂利道という選択肢もあると思いました。盛土をして造るとなると立派な道を想像するが、車椅子の方向けにそういったものが必要ということですね。
<C 委員>　盛土するとなると中に水が溜まるなども考えら、何か問題が出てくるかもしれない。
<D 委員>　道路は街に造ると嫌われる人工物で、アスファルト舗装もずっと使うことはできない。しかし、車椅子が入るとなると砂利道では厳しく、歩きやすさ等考えると硬くて凹凸のないアスファルトが良い。ただし、旧溜め池を埋め戻したところに園路を造ると不同沈下する可能性がるので、考慮する必要がある。
<C 委員>　園路についてはまだ検討する必要がある。

⑧多目的広場
<事務局>　（資料説明）
<B 委員>　立派なものでなくても良いが、何か雨がよけられたりするものがあっても良い。
<E 委員>　多目的広場は駐車場も兼ねていますよね。園路は舗装ですが、多目的広場が砂利というのは車椅子の方にとって厳しく、配慮が必要。また、雨以外にも夏の直射日光を避けるための屋根や木陰が必要。

⑨植栽
<事務局>　（資料説明）
<F 委員>　縄文時代の植生を再現するのは賛成ですが、幅広く将来的にワークショップ等で使える木、例えば食べ物のなる木や細工のできる木などにぎやかな森にすれば良い。また、樹種選択は縄文時代の花粉分析をもとにすれば良い。市道団地中央道路両側の法面は、緑化すると街路樹のイチョウ並木に頼らず緑豊かな感じになる。斜面が遺跡に関係ないのであれば、可能性があるように思う。今イチョウ並木を植えているところも緑化することが出来れば効果がある。
<A 委員>　必ずしも木を1・2種にしぼる必要は無い。また、既に街路樹がある中で周囲を10mおきに植樹して囲っても大して目隠しにならない。見学ポイント②と見学ポイント③の間にかなり立派な木がシンボル的に見えるが、そういった木が内側に何本かあった方が良い。その木として、ハルニレやミズナラを植えてこの遺跡のシンボルにした方が良い。将来の日よけにもなる。今の状態だと寂しい感じが

して、カラマツを切ってとなると余計にさみしい感じがする。
＜E 委員＞　この整備が進むと、子供たちも親しむ場所になると思う。そこを木で囲ってしまうとかえって危険になるので、あまり囲まないような植栽の方が良い。
＜C 委員＞　ベンチも園路沿いにもっとあった方が良い。
＜E 委員＞　ベンチはすべてのポイントにほしい。

⑩基本設計全般
＜事務局＞　（資料説明）

（3）基本設計以外の史跡カリンバ遺跡整備について
＜事務局＞　（資料説明）。
＜B オブザーバー＞　残り 2 回委員会があり、委員の先生方から具体的な意見が出てくる。意見が分散しないように委員会の中で段取り良く進めていただきたい。11 月に令和 6 年度の文化庁補助のヒアリングがある。少なくとも 2 回目の委員会で、令和 7 年の実施設計の対象について判断を迫られることになる。スケジュール管理の程よろしくお願いします。また、最近道南の史跡で焚火をされたという事例がありました。火気厳禁などの注意札も必要と思うので、市内の公園等を参考にして禁止事項を書いていただければと思う。
＜A オブザーバー＞　資料の 6 頁の第 3 条に注意札の項目がある。注意の内容を総合案内板に書くやり方と単独で作る方法がる。
＜C 委員＞　かなり広いエリアを人が行き来できるようになる。サッカーをする人やドローンを飛ばす人など様々な人がいると思う。そのため、早めに禁止事項については決めておいた方が良い。
＜B オブザーバー＞　安全管理面についても念頭に置いておいてほしい。段丘崖や水路といった傾斜地の近くまで行ける場所もあると思う。
＜F 委員＞　道南の史跡整備では斜面の転落防止のため、段丘縁に海岸植生で棘のあるハマナスを大量に植えた。そういうことも必要になる。
＜C 委員＞　スケジュールを考えると、かなり早めにたたき台を委員の先生方にお渡しして、意見を集約し委員会に諮る方が、手続きとしてはかなりスムーズになると思う。

6. その他
＜事務局＞　第 2 回委員会は 9 月頃、第 3 回委員会は来年の 1 月頃を予定しています。

7. 閉会